

## 東彼杵町総合計画振興懇話会 議事録

1	会議の名称	<b>令和5年度 第1回 東彼杵町振興懇話会</b>		
2	会議の開催日時	令和5年5月12日(金) 13時30分～14時30分		
3	会議の開催場所	東彼杵総合会館研修室1～4		
4	事務局(担当課)	総務課企画係	傍聴者数	0名
5	出席委員	大澤裕次(会長)、江口智彦(副会長)、吉永秀俊、伊藤幸繁、佐藤和則、木場健一、濱田徳雄、飯塚将次、明時千枝子、福田勝洋、吉浦学、白水聡、浦修一、森一峻、佐崎智章、古川茂、三宅康則  <div style="text-align: right;">(以上17名)</div>		
6	会議の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱状の交付</li> <li>3. 町長あいさつ</li> <li>4. 委員自己紹介</li> <li>5. 会長及び副会長の選出</li> <li>6. 諮問</li> <li>7. 協議事項 (1)第6次東彼杵町総合計画の策定について  <ol style="list-style-type: none"> <li>①第6次東彼杵町総合計画策定方針とスケジュール</li> <li>②第6次東彼杵町総合計画策定にかかる各種調査結果 概要報告</li> </ol> </li> <li>8. その他 (第2回東彼杵町振興懇話会の開催について)</li> <li>9. 閉会</li> </ol>		
7	配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回東彼杵町振興懇話会 次第</li> <li>●東彼杵町振興懇話会委員名簿</li> <li>●資料 住民ワークショップ報告書</li> <li>●資料 第6次東彼杵町総合計画策定にかかるアンケート調査報告書(一般住民対象)</li> <li>●資料 第6次東彼杵町総合計画策定にかかるアンケート調査報告書(小中学生対象)</li> <li>●資料 第6次東彼杵町総合計画策定方針</li> <li>●資料 第6次東彼杵町総合計画策定にかかる関係団体調査結果報告書</li> </ul>		
8	審議等の内容	別紙のとおり		

## ○開会

事務局：

ただ今より令和5年度第1回東彼杵町振興懇話会を開会する。

委嘱状を交付するが、代表受領とさせていただく。岡田町長は公務のため県外出張しており、三根副町長が交付する。

## ○委嘱状の交付

～三根副町長より委員を代表して長崎県立大学の太澤教授に委嘱状交付～

## ○あいさつ

三根副町長：

東彼杵町振興懇話会の委員就任を引き受けていただきお礼を申し上げます。

4月に発表された日本の将来推計人口結果の概要では、総人口は50年後、現在の7割に減少し、65歳以上の人口はおよそ4割を占める。昨年の出生数は80万人を下回るとの発表もある。

本町の人口は2020年（令和2年）までの20年間で23%減少している。川棚町の2倍、波佐見町の3倍のスピードで減少している。

高齢化率は、外国人を含め39.1%で、昨年度で0歳児が35人。15歳未満の年少人口を比べると20年前の半分になっている。

このような危機的状況にあり、よほどのことがない限り本町だけが増えることはないと思われる。現人口の7,500人を目標に、7,000人台をキープできるような政策を打てるかどうか、今が勝負時ではないかと話している。

今回策定する総合計画はラストチャンスの10年と考え、新たな政策も打ち出していきたいと考えている。委員から自由な発想と忌憚のない意見を頂戴し、実効性のある計画になるように役場を挙げて取り組んでいきたい。

## ○自己紹介

事務局：

席次順に従い、自己紹介をお願いします。

～各委員自己紹介～

## ○会長及び副会長の選出

事務局：

懇話会規則第3条の規定により、会長、副会長は互選となっているが、事務局の人選に一任いただけるか。

(拍手で承認)

会長に長崎県立大学の澤教授、副会長に東彼商工会東彼杵支所の江口支所長をお願いします。

## ○諮問

～三根副町長から澤会長に諮問書を交付～

～三根副町長が公務のため退席～

事務局：

懇話会規則第4条の規定で会議の議長は会長となっている。協議事項の進行を澤会長をお願いします。

## ○協議事項

澤会長：

会長及び議長を務めさせていただく。現在、長崎県立大学佐世保校にて経営学部国際経営学科で主に国際金融論を講じている。前職の日本銀行に31年間勤め、主に日本経済や世界経済の分析を担ってきた。ドイツに計3回、8年半ほど駐在し、熊本支店に約2年間勤務した。

副町長の話があった、「ラスト10年、思い切った政策」へ皆さまの知恵を拝借しながら議事を進めたい。

今回の会議は第6次東彼杵町総合計画策定に関する説明や各種調査結果報告が主な内容となる。委員の忌憚のない意見、提案をお願いします。

## 1. 第6次東彼杵町総合計画策定方針とスケジュール

大澤会長：

初めに、(1)第6次東彼杵町総合計画の策定について、①「第6次東彼杵町総合計画策定方針とスケジュール」の説明を事務局にお願いします。

～事務局より説明～

大澤会長：

①の説明に対し、委員から意見、気付きの点等はないか。

策定方針の3つの大きな柱のうち、1番目の「社会動向を反映した計画づくり」の背景について、人口流出や減少など動きの速い社会情勢を適宜・適切に反映したいとの趣旨と理解したが、いかがか。

事務局：

おっしゃる通り、激しく変動する社会情勢に合わせた計画をつくらないといけないとの解釈である。

特に人口減少については、合計特殊出生率は先進国の中でも最も高いフランスでも1.8程度で減少は続く。日本は1.3で早急な改善は難しいが、できるだけ出生率を上げつつ、社会増減をプラス・マイナスゼロに持っていく施策の展開を考えている。

大澤会長：

委員からはいかがだろうか。

委員：

第5次計画の評価について、形として示すものがあるか。

事務局：

結果を取りまとめ中である。内容は取りまとめ次第紹介したい。

人口減少の観点からいうと、この10年間で持ち家奨励金や空き家バンクなどを盛り込んだ移住施策を使った移住者が470名になる。昨年度は遠距離通勤応援金や宅地造成にも補助金をつけた。

ある大学の試算によると、人口1,000人当たり若者世帯1世帯が毎年転入す

れば将来人口は大きく減少しないとされ、年間7世帯を目標に取り組み14世帯が移住した。そのうち8割が若者世帯である。本来であれば高齢化率(令和5年度)が42%になる見込みだったが、施策の効果もあり、現在39%で踏みとどまっている。現在、社会増減をプラス・マイナスゼロに持っていくように取り組んでいる。

大澤会長：

ほかの委員はどうか。

委員：

東彼杵町振興懇話会は55年前からあるのか。

事務局：

そうである。振興懇話会は町内の各種団体・機関等から集ってもらい、町の基本的な構想などを策定するために設けられた。今回は総合計画の諮問を懇話会に諮ることになった。

古い歴史のある会議の規則だが、検討のたびに各審議会など会議をつくるのではなく、総合計画は町の最上位計画となるため、各機関・団体から多数委員を募り審議を進めていただきたく考え、この規則を使ったものである。

大澤会長：

ほかにいかがだろうか。

意見等がなければ、①については承認いただいたということでよろしいか。

(異議なし)

## 2. 第6次東彼杵町総合計画策定にかかる各種調査結果 概要報告

大澤会長：

続いて、②の「第6次東彼杵町総合計画策定にかかる各種調査結果 概要報告」について事務局から説明をお願いします。

～事務局、ジャパン総研より説明～

大澤会長：

かなりのボリュームになる調査の概要を報告していただいた。委員から意見等あるか。

委員：

アンケート調査の対象は何団体に発送し、どのくらいから回答したのか。

また、高校生を対象にした調査が抜けていると思うが、それに対する見解を伺いたい。

事務局：

関係団体として 67 団体に送付した。

ジャパン総研：

住民アンケートは 18 歳以上、小中学生のアンケートは、学校の端末を通じてウェブ上で一斉に回答していただいた。高校生の調査が難しく、アンケート調査は実施していないが、ワークショップで若者世代として 6 名に参加してもらった。その中では、町内在住で町外の高校に通う人も参加し、積極的に意見を出してもらった。数は少なかったが、意見を大事にして計画に反映していきたい。

大澤会長：

ボリュームがあり、自由記述のコメントもあって、バラエティーに富んだ意見が多く寄せられたと思う。

～事務局から補足説明～

大澤会長：

資料を拝見し、女性の活躍の視点からの意見があまり載っていなかったという印象がある。この辺りについて、ワークショップなどで意見はなかったか。

ジャパン総研：

アンケート調査では、女性活躍についての意見が出てこなかったが、子育て世代のワークショップでは、現在の状況から 10 年後に改善された点（住民ワークショップ報告書 12 ページ）について「男性が育児に対して協力的になってほしい（当たり前に参加してほしい）」、また「男性の家事育児能力の向上」という意見が出され、グループ内で共感する声が聞かれた。

ジャパン総研：

男性の家事育児の参画についてはこのような意見が出たが、女性活躍との視点では、女性がいかに働いていくかとの話も入ってくる必要がある。ただ、この点については意見が出にかかったところがある。

団体ヒアリング、ワークショップすべてを通して、特に若い世代向けの働く場所をどう確保していくかが町では難しいとする意見が多く、それとともに女性が働きやすい場所をつくることについての意見が出づらかったところがあると思う。今後、若い世代が働く場所をどうつくっていくのか、その中で男女問わず働きやすい環境形成の視点で施策を進めていくことが必要になる。

大澤会長：

働く場所と併せということだと思う。

ほかに意見はないか。

委員：

小中学生を対象にしたアンケート結果の10ページに中学、「高校卒業後に町に住みたい」（全体で13.3%）、「東彼杵町以外に住みたいが戻ってきたい」（同44.6%）となっている。将来の働き場所を聞く問いもあり、子どもたちの実態把握に参考になる調査だが、他市町村の類似調査内容と比べてどうかが分かると、ふるさと教育の進み具合などを見て取れる。今後、ほかの調査と比較できればいいと思う。

事務局：

今回、他市町までアンケート調査を取るのは難しかった。こうした類似の調査は、他市町で行っているかもしれないので、調べて示すことができればと思う。何かしらのデータがないか探していきたい。

大澤会長：

検討をよろしく願います。

子ども調査にはストレートな意見が多く載っている。「決めていないけど九州からは出ていく」と強く宣言している子どもがいる一方で、12、13ページでは「国連で働きたい」や「通訳になりたい」など、国際的に外に目を向ける子どもおり、バラエティーに富んだ意見を興味深く拝見した。

ほかに意見等ないか。

以上で協議事項については終了するが、全体を通して意見、気付きの点はないか。

委員：

定住策を例に考えると、町は現住者を守りつつ、移住者が喜ぶ町をつくるのか。それとも移住者を中心とした形にするのか。補助金など行政による移住者の誘致施策では一時的な効果となり、中身が伴わなければ定住はないと思う。そのため、現状の町民の満足度を上げていくところが結論ではないかと考えている。町として今後、懇話会どういう方向に考えているのか、事務局の考えを聞きたい。またコミュニティを考える上で、バスを準備してほしいとの意見も多い。

事務局：

もったいな意見である。町は県内でも最も交通アクセスが良く、自然環境にも恵まれている。しかし、地元勤め先がないとの理由から外に出ていく人をどうするかが町の課題である。

隣の大村市は、長崎市、諫早市からの移動が多く人口が増えている。しかし、東彼杵町にとって大村市のようなまちづくりの方向は難しく、田舎チックで地域コミュニティが根強く残るのが理想と個人的に思っている。

指摘があったバスの問題も懸案事項である。限界集落が取りざたされるが、町内34地区で高齢化率50%超は10年前の1カ所から5カ所に増えている。山間部を中心に、そういったところの住民の足確保は深刻な問題で、対策を練っている。

まちづくりの方向性としては、アンケートからも自然環境、地域性を生かすべきではないかと戦略的には考えている。戦術については身の丈に合った独自の施策ができればいいと考えている。

委員：

子育て世代の母親からの意見だが、最も困っていることは小児科医がないことである。保育園で子どもが発熱などした場合、川棚町の国立病院に行くしかない。予約が必要で、緊急の場合は大村や遠方に行くケースもある。

不便ではないというが、買い物も不便で町外に出向く人もいる。新たに入ってくる人が「彼杵はいい」と思えるまちづくりを目指してほしい。

事務局：

町長が改選後初の臨時町議会で所信表明するが、指摘があったところが内容に含まれていると思う。小児科がないことも把握しており、商業施設とともに誘致したいと考えている。

町の高齢化率が高まり、独居老人の8割が、他市町にいる子どもが地元に来た際に買い物を頼んでいるようだ。今後そうしたことが続けばどうなるか不安視



され、そういった問題の解決を目標に据えて施策に取り組んでいきたい。

委員：

東彼商工会青年部は「そのぎ茶市」などイベントを行うが、青年部の人数が川棚町、波佐見町、東彼杵町の中でも最も少ない中で活動している。人口減少の中で、魅力的な企業が見えていない、情報が行き届いていないことが一番大きな課題で、この町で夢を見ることができかどうかを懸念している。

政策として商工業の振興で見える化する部分に政策を入れてほしい。各市町村にいるキーパーソンや、これまで文化など各界で礎を築いた人たちがいることを若い世代に伝えることも大事だと思っている。

事務局：

町は、そのぎ茶と「日本一」の3文字を使える事業がある農業の町である。農業、商業、工業のバランスがいいのが本来で、これまで見える化の視点がなかったと思う。祭りや組織づくりも含め、見える化しながら形として持っていければと思っている。この10年が最後のチャンスと捉え、産業間でスクラムを組んでやっていければいいと考えている。

委員：

赴任先の各地でもスーパーの誘致が目立った。しかし、県内のどこにでもあるスーパーができたとしても、東彼杵町らしい町にならず、どこに行っても一緒になりかねないことに注意すべきである。

また医療機関の誘致については、西海市も小児科医1、産婦人科はないところだったが、市は6,500万円の補助金を出し医師を誘致しているが、事業から3年たっても実現していない。波佐見町も小児科医の誘致を掲げているが難しく、誘致には覚悟が必要である。誘致後も地元が使わないと採算が取れなくなるため、慎重に進めてほしい。

大澤会長：

ほかの委員はいかがか。意見等がないようであれば、以上で協議事項を終了したい。協力に感謝する。進行をいったん事務局に戻したい。

## ○その他

### 1. 第2回東彼杵町振興懇話会の開催について

事務局：

2回目の懇話会は8月に開催する予定である。基本構想のたたき台等について示したい。アンケート等もボリュームがあり、委員には苦勞をかけたが、構想に反映する形でたたき台を作成していきたい。

## ○閉会

事務局：

第1回懇話会を閉じさせていただく。ありがとうございました。